

鳥栖倉庫株式会社

31ftJRコンテナ「48A」で食料工業品を鳥栖から大阪へ

鳥栖倉庫(株)(本社・佐賀県鳥栖市)は、倉庫業を主体に物流一貫システムを構築し、九州島内は元より日本全国へ物流網を広げてきました。食料工業品、化成品、衣料品など業種の異なる70社余りの顧客の製品を延床3万坪の倉庫で保管しています。

1989年からは情報化戦略を強化し、入庫、加工、配送、輸送手段の選択、輸出入通関、物流システムの設計や運営管理などを一括受託する3PL事業を展開しています。

今回、同社はJR貨物が環境省の「物流低炭素化促進事業」による補助を受け昨年10月から新規投入した31ftJRコンテナ「48A」を九州地区で初めて利用した、鳥栖～大阪間の食料工業品の鉄道輸送を開始しました。

鳥栖倉庫はモーダルシフト推進を掲げ、一昨年に第二種利用運送事業者免許(鉄道)の許可を受けました。

高田信哉社長は「2013年度を通運元年と位置づけて、新規に5tコンテナで月間100個の発送を計画しています。これまで築いた地域のネットワークを活かしJR貨物と連携し、新規事業として利用運送事業を軌道に乗せたいと考えています。昨年末から31ftJRコンテナによる食料工業品輸送が始まりました。今後は、その他食品も合わせ大阪と岡山向けに鉄道コンテナの活用が多くなるでしょう」と意欲的に話しました。



鳥栖倉庫本社



高田社長



古村部長

鳥栖倉庫営業部の古村正利通運担当部長は「大阪向けの荷物に31ftJRコンテナを活用してはどうかとJR貨物鳥栖営業所から提案がありました。そこで、条件がマッチする食料工業品メーカー様に向けて、新たに経費を掛けないで10tトラックと同等量を31ftコンテナで輸送する交渉を進め、物流センター間の製品輸送で試験を行いました。結果は良好で、着側から鉄道輸送の承諾が得られ、本格輸送となりました」とこれまでの経緯を話しました。



権藤部長

権藤康隆業務担当部長は「鳥栖から約700kmの距離となる大阪までは鉄道輸送にコストメリットがあり、これまでも荷量が5tの場合は12ftコンテナを活用していました。荷量が多いときはトラック輸送でしたが、現在は週2回、7～8tにまとまると31ftJRコンテナで鉄道輸送しています」と話しました。

鳥栖倉庫は本輸送の荷主である食料工業品メーカーの元請けとして、福岡工場の在庫管理、配送など業務全般を同社田代事業所で一貫受託しています。



田代事業所入口



12ftコンテナの積み込み



31ftJRコンテナ



12ftコンテナは佐賀運輸(株)、31ftコンテナは筑後運送(株)が集配を行って、複数の利用運送事業者でリスクの分散を図っている

自社開発システムで管理する物流一貫システム



2012年度中小企業IT経営力大賞を受賞、IT経営実践認定証を手にする高田社長

鳥栖倉庫は、常温のほか冷蔵、低温、加温、危険品の各倉庫や温湿度管理機能を備えた各種物流加工に対応できる加工専用ルームなどを有しています。さらに自社独自のソフトを開発し物流一貫システムを構築してきたことで、旧来の倉庫業の枠に捉われない、高品質、高付加価値の物流サービスを提供できるようになりました。数万アイテムを有する顧客から少量の保管まで取扱量の

を管理でき、どのような条件にも対応することで他の事業者と差別化を図ってきました。

また情報システム部門では、顧客の要望に最適なシステムを開発し、機器のセットアップやネットワークの構築等にも対応し、物流、生産管理、労務管理、経理システムなどの開発も行っています。

高田社長は「システム運用後の変更や追加にも迅速に柔軟に対応できるのは、システムを自社開発しているからです。中小規模の事業者で、情報化が始まった早い時期から社内に情報処理部門を配置したところは少ないと思います」と話しました。

鳥栖市は福岡、熊本、鹿児島を結ぶ九州縦貫道と長崎、大分を結ぶ九州横断道のジャンクションに位置する物流

拠点です。「今、新しくできた工業団地には大手企業や物流センターが進出し、鳥栖にはモノが集まってきます。新たなビジネスが生まれるチャンスであり、地域の活性化も期待できます。これからは、製品組立などにも進出し、荷主企業の物流部門と連携を密にして3PL事業の拡大をしていきたいと考えています」と今後の抱負を述べました。



低温倉庫などが並ぶ田代事業所



フォークリフトが行き交う倉庫前



400人のパート従業員で行う各種物流加工



ラベル印刷



事務所 全社でパソコンを100台配備



食料工業品の保管棚



量販店別の仕分けスペース



常温倉庫

column

JR貨物 鳥栖営業所

— 大型コンテナの発送を増やす —

JR貨物鳥栖営業所では、鳥栖倉庫と積載荷物の食料工業品を最良の状態に輸送できるように検討を重ね、指定された課題を解決することに努めました。そのため開始は多少遅れましたが、今は順調に輸送が増えています。食料工業品輸送に利用している31ftJRコンテナは、発駅の鳥栖(夕)に速やかに戻してもらえるように、着地の大阪営業支店と連絡を密に取っています。



原田所長

原田清茂所長は「鳥栖(夕)はトップリフターが配備されているので路線便の到着が多くありますが、発送は少なかったです。今後は大型コンテナの発送を増やしていく計画で、既に地場産業の家具メーカーなどから引き



竹内課長代理

合いもあります。輸送量の拡大をめざし、成果を出していきたいと思っています」と話しました。竹内康就課長代理は「営業をするときは、鉄道輸送をファーストチョイスにもらえるよう、鉄道コンテナ輸送の強みを生かした提案をしていきたいと思っています」と話しました。



鳥栖(夕)構内